

北海道・宗谷地域のサイクルツーリズム推進に係る 計画策定及び合意形成手法について

パシフィックコンサルタンツ株式会社 正会員 ○泉水 良之
パシフィックコンサルタンツ株式会社 金子 誠
北海道開発局 室蘭開発建設部 日高道路事務所 鎌倉 亮
(前 北海道開発局 稚内開発建設部 道路計画課)
北海道開発局 旭川開発建設部 道路設計管理官付 舘山 孝利
(前 北海道開発局 稚内開発建設部 道路計画課)

1. 北海道開発局におけるサイクルツーリズムに 関する取組・背景

北海道開発局及び北海道では、世界中のサイクリストにとって安全、安心な“世界水準のサイクリング環境”を目指し、「北海道のサイクルツーリズム推進に向けた検討委員会」を設立し、H29～H30年度の2年間で『きた北海道ルート』をはじめ、5つのモデルルート

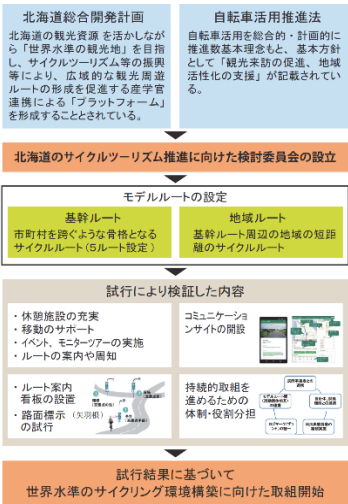


図1 北海道開発局における取組を設定し、試行・検証を実施した（図1）。

2. きた北海道ルート及び地域をとりまく現状の 問題点と課題

1) きた北海道ルート概要

宗谷地域においては、旭川地域とをつなぐ『きた北海道ルート』がモデルルート（基幹ルート）として指定されており、和寒町を起点として道北



図2 きた北海道ルート
図2は、きた北海道ルートの概要を示しています。ルート1（和寒町～宗谷岬）は約290km、ルート2（野塚展望台～野塚展望台）は約60kmと示されています。地図には、旭川、和寒町、野塚展望台、利尻島、稚内市、宗谷岬などの地名が記載されています。

地域を縦断する稚内・宗谷岬を結ぶルート1と利尻島一周のルート2からなる全長約350kmのサイクルルートである（図2）。
また、宗谷地域では利尻島一周ふれあいサイクリングをはじめ各地でサイクルイベントが実施されており、地域振興や経済活性化に資する取組としても大きな注目を集めている（表1）。

表1 宗谷地域におけるサイクルイベント(H30)

サイクルイベント名	開催地域	イベント分類	開催時期
サロベツ100マイルロードレース	豊富町	ロードレース	H30.7.21～7.22
チャリ・デ・秘境駅	幌延町～豊富町	ボタリング	H30.8.4
利尻島一周ふれあいサイクリング	利尻町、利尻富士町	ツーリング	H30.8.26
TEPPEN-RIDE2018	旭川市～稚内市	ロングライド	H30.9.22～9.24

キーワード：サイクルツーリズム、自転車走行環境、合意形成、ナショナルサイクルルート、ワークショップ
連絡先（住所：北海道札幌市北区北七条西一丁目2番地6 TEL:011-700-5224 FAX:011-709-0628）

2) 地域をとりまく現状の問題点と課題

宗谷地域においてサイクルツーリズムを推進するためには、基幹ルートを補完する地域ルートの計画・展開が重要である一方、取組が基幹ルート沿線地域に限定されてしまうと波及効果は一部に留まってしまう恐れがある。

さらに、現在の基幹ルートは宗谷地域の5自治体が該当するのみで、その他5

表2 宗谷地域の自治体と取組状況

分類	宗谷地域							
	稚内市	猿払村	浜頓別町	中頓別町	枝幸町	礼文町	利尻町	利尻富士町
基幹ルート	○				○		○	○
行政・観光協会	○	△	△	△	△	△	○	○
民間事業者	◎						○	○

凡例：◎：活動主体、○：取組を実施中
△：取組を検討中

町の目立った取組が実施されて
いない状況であり（表2）、サイクリングに対する取組意識も地域による差が見られていた。

そのため、サイクルツーリズムの推進にあたり①宗谷地域の特性に相応しい地域ルート等に関する計画策定、②円滑にかつ取組を積極的に進めるための地域同士での連携強化、③地域関係者の声、意見を的確に捉え取組や協働に係る地域全体の意識醸成を図る必要があった。

3. 宗谷地域の地域特性に対応した計画策定なら びに合意形成手法に基づく取組

したがって、計画策定にあたっては、検討プロセスを重視した参加メンバー間での情報共有や連携意識の醸成を図りながら、計画に対してもメンバー間及び関係者間での確実な同意が得られる手法として、検討によるプロセスに留意しつつ、的確・確実に計画内容へ結びつけることができる『検討プロセス重視型の合意形成手法』を採用し、取組を進めていった。

その中でも、計画策定及び連携強化を図るための合意形成に係る具体的な取組内容について紹介する。



図3 計画策定と連携強化を図るためのポイント

1) 検討プロセスに留意した意見交換会のテーマ設定

サイクルツーリズムに関する知見や情報（量・質など）は関係者間で大きく異なることから、参加者同士ができる限り情報を共有するとともに、検討段階のレベルや熟度に応じた検討内容や意見交換に留意する必要があった。そのため、第1回－サイクル関連情報や自転車利用に関する環境の優位性等を関係者間で共有しあうことを主眼とした意見交換会、第2回－地域同士の連携意識をさらに深め、顔の見える関係構築からさらなる連携強化をテーマに据え、地元関係者の事例紹介や地域ルート候補（案）ならびに次年度以降の取組内容を話し合う意見交換会を企画、実施した（表3）。

表3 各意見交換会での項目と主な取組内容

回数	項目	テーマ・内容
第1回	基調講演	宗谷地域のサイクルツーリズムの可能性について
	意見交換	現状の地域の取組（問題課題等）、地域ルート候補について
第2回	事例紹介	宗谷地域のサイクルツーリズムに係る取組の話題提供
	意見交換	地域ルートの設定、今後の取組に向けて

2) 幅広い意見収集や共有意識の醸成を図るためのワークショップ形式による意見交換会やフィールド視察

意見交換会では多くの地元関係者が集まると同時に、課題や問題意識も様々なことから、その場でより多くの意見を引き出し⇒確実な情報の収集⇒多様な情報から方向性等をとりまとめる必要があった。そのため、意見を出しやすい雰囲気づくりに留意した1班5～6名の3班構成でのワークショップ形式により運営、各グループのファシリテータが進行を担うものとした。また、今後の連携や相乗的な取組を想定し、隣接地域の関係者を集めてテーブルに配置したことで、グループワーキング開始直後から議論が活発化する場面が多数見られた。

さらに、グループワーキングのみならず、意見に上げられた“地域ルート候補”のフィールド（ルート）視察も行った。サイクルルート上の景観・自然の素晴らしさを肌で感じ、また、関係者が実際のサイクリスト目線に立ったことで真に必要な沿道サービス・施設に関するニーズの共感・実感につながった。



図4 グループワーキング(左)とフィールド(ルート)視察(右)

3) 確実で円滑な情報共有やフィードバックを図るための関係者を対象とした事前・事後アンケートの実施

限られた時間の中で計画策定を行うため、1)～2)に関連した取組として意見交換会前後に関係者アンケートを実施した。目的は、関係者の具体的な悩みや取組意識について予め把握することであり、関係者間の課題共有が迅速になり、事後のアンケートは次回に向けたフィードバックによる会議内容をさらに改善する意見として有効活用にもつながった。

4) モチベーションアップや取組意識の向上ならびに継続性を確保するためのニュースレターの作成・配信

意見交換会終了後から次回会議開催までは取組や計画が進まず停滞してしまうことがないよう、取組意識の維持・継続・向上を目的とし、ニュースレターの作成・配信を行った（図5）。

これにより、関係者に対する速やかな結果報告につながると同時に、別途会議での協議資料として活用され、サイクルツーリズムに関する取組が関係者以外に周知されるなど副次的効果も現れている。



図5 ニュースレター

4. 取組による成果と今後の展望

今回、従来からある合意形成手法を用いて、宗谷地域の特性に応じた取組を実施したことで、計画策定に向けた推進体制の構築をはじめ、地元意見の収集や集約、さらには関係者の意識醸成や課題・認識共有など、サイクルツーリズムの推進に向けた取組の一助になったと考える。この取組は、他地域においても計画段階や合意形成に係る手法として展開や応用が可能であると考えられる。

今後、更なる発展を目指すためには、官民が一体となった世界水準のサイクリング環境の形成に向けた取組が望まれる。現在、検討の進むナショナルサイクルルート登録や認定も視野に入れ、“双輪は宗谷を目指す！”を合言葉に、今後も地域の方々と一丸となって、サイクルツーリズムの推進に向け協働・協力・支援を行ってきたい。

なお、この場を借りて宗谷地域のサイクルツーリズムの推進のために尽力頂きました、地元サイクル関係者の皆様や有識者の方々に改めて御礼申し上げます。